

# 箱根に生きること

函嶺白百合学園中学校 一年 古宇田 千歳

私は、箱根の学校に通う中学一年生です。箱根に通い続けて七年目になりますが、箱根登山電車に乗り窓の外を眺めるたびに、山を登るにつれ深まっていく自然の色合いに今でも感動しています。私は箱根が大好きで、毎日箱根に通うことが楽しみです。学校が楽しいのも、美しい自然や澄んだ空気のおかげだと思っています。

箱根登山電車の窓から見える色鮮やかな自然は、季節ごとに違う表情を見せます。春には桜の花びらが舞い、初夏には太陽が鮮やかな新緑を輝かせ、梅雨の時期にはあじさいの花に水滴が輝き、秋には美しく赤や黄色に染まった紅葉がみられ、そして、冬には一面の銀世界が広がります。その中をゆっくり進む箱根登山電車やロープウェイは、風景に溶け込み、乗っている人々を自然の世界へと連れて行ってくれます。

また、箱根では野生の動物たちとの距離も近いです。私が小学一年生の時のことですが、学校の授業で育てていた朝顔の花を、夏休み前の休日に、学校内に入りこんだイノシシに食べられてしまいました。この時、私はイノシシが朝顔の花を食べることを初めて知り、驚きました。三年生

の時には、道の向こうの方にイノシシがうりぼうを連れて現れたこともありました。うりぼうは小さく、淡い毛の色で可愛かったのですが、危険なので近寄らず、遠くから友人たちと眺めていました。電車の窓から猿を見かけて、みんなで大さわぎしたこともありました。

そんな思い出あふれる箱根ですが、私には気になることがあります。

この前、私がいつものように強羅の通学路を歩いていると、道に丸まったティッシュやタバコの吸いながらいくつか落ちていました。もう少し歩けばゴミ箱があるのに、なぜその場で捨ててしまうのかともやややし、少しのゴミだけで嫌な気分になってしまいました。ゴミを捨ててしまった人も、箱根の自然を楽しみにきたはずなのに、どうしてそれを壊すようなことをしてしまったのでしょうか。

その要因の一つとして、観光客の人々は箱根をあくまで観光地として認識していて、自分とはあまり関わりのない地だと思っていることが問題なのではないでしょうか。

箱根には、国内外からたくさん観光客がやってきます。その中には、箱根から遠い地域や、外国から来た人も多く

います。

人は自分とは関係ない場所だと思えば、ゴミが落ちてしまったりしても、あまり気にせずそのままにしてしまうことがあります。しかし、自分の家の中など親しみの深い場所にわざとゴミを捨てる人はほとんどいないでしょう。むしろゴミが落ちていたら拾うと思います。自分の大切な場所は汚したくない、きれいになりたいという思いは、誰しもあると思います。私は箱根を大切な場所だと思っています。

私たちの学校では、年間十六回の清掃活動があります。学校内に加えて、学校から強羅駅までの道の清掃もします。毎回丁寧に、他の人と協力し、道をきれいにします。また、最近私は、ゴミを見つけたら拾って捨てるようにしています。私たちの学校も、そこで学ぶ私たちの姿もまた、箱根登山電車と同じように、箱根の風景に溶け込んだ、箱根の一部だと思っています。私たちがこのような清掃活動を積極的に行うことで、その時その場所がきれいになるということだけでなく、私たちが箱根で生活し、箱根を大切に思っているということを観光客の人たちにも訴えかけることにも繋がると思います。

箱根を大切に、よりきれいになりたいという私たちの思いを広め、箱根と関わりのあるすべての人々とともに箱根をきれいに、美しく育てていきたいです。